

地産地消と短距離輸送の確立

地産地消における物流問題の解明・小ロット末梢流通体系の成立要件の解明

食農ビジネス学科

たねいち ゆたか
 教授 種市 豊 (食料・農業市場研究室)

E-mail yutaka.taneichi@setsunan.ac.jp

キーワード 地域循環型流通 効率性と頑強性 基幹と末梢
 異業種共配 農産物物流 小ロット輸送



研究概要

背景

- 農山村の多くは、少子高齢化や都市部への人口集中の顕在化に伴い、人口減少と過疎化が進行しています。また、農村部等の条件不利地での輸送は、十分な利益を見出しにくい状況と、地域や住民の生活圏維持という社会的機能との狭間の中で生活権利を維持するための重要な課題を抱え続けています。
- 農産物・食品の輸送は、「物流2024年問題」などにより、運転手の労働時間の制限、高齢ドライバーの引退などに伴い、今後、さらに厳しい環境となりつつあります。
- 短距離輸送の構築は、①流通の末梢部にあたる過疎地域の運送事業の存続、②地産地消や地方食品産業の存続、③災害時などの不測の事態に対する対応などで重要なものとなります。

目的

- 過疎地域でフードサプライチェーンが機能不全に陥った際、二律背反の関係性にある“長距離輸送・効率性に主眼をおいた基幹型”と“短距離輸送・頑強性に主眼をおいた末梢型”の、物流面・食料調達面での違いを解明し、また両者が水平的な連携条件を構築するうえでの行動原理を明らかにします(表1)

主な成果

- 出荷者の高齢化が進む農産物直売所の巡回集荷の実態と必要性を解明しました。
- 直売所連携での輸送モデルの提示をしました。
- 加工・業務用青果物輸送におけるスマ農と輸送体系の再構築に参画しました。

表1 本研究で対象となる「基幹型」「末梢型」の定義

		基幹型流通	末梢型流通
本研究の対象		全国量販店	地方量販店
性質		効率性	頑強性・フレキシブル
設計原理	規模	大規模:大量生産	小規模:少量生産
	配置	集中:大量販売	分散:少量販売
	分野	専門化:集中	複合化:つながり
ネットワーク構造		遠隔化:輸送の長さ	近隣循環:輸送の短さ

連携への展望

【地方量販店や農産物直売所との連携】これから輸送問題が深刻となる農山村において、短距離に主眼を置いた巡回集荷や新しい輸送形態のあり方の提言・助言を行なってゆきます

【地方自治体・輸送研究分野との連携】農産物流通において、過疎地域・離島や山間地などの輸送困難地域への輸送問題の解決等に向けた提言をしてゆきたいと考えております。



アピールポイント

これまでの農産物物流、特に小ロット短距離輸送に関する研究で得られた知見を活かし、物流問題の解決につなげます。